

取扱説明書

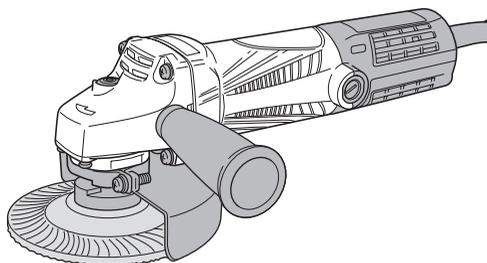
用途

- 鉄、青銅、アルミ鋳物などのバリ取りおよび仕上げ、溶接、溶断部の研削、さび落とし
- 塗装面の下地みがき、さび落とし、塗装落とし
- 軟鋼材（薄物鉄板、小径丸棒など）の切断
- カワラ、タイルなどの切断
- カワラ、タイル、石材、コンクリートなどの溝入れおよび研削

日立 電気ディスクグラインダ

125 mm G 13SH5

このたびは日立電気ディスクグラインダをお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



電動工具の安全上のご注意	1
本製品の使用上のご注意	4
各部の名称	7
仕様	8
別売部品	9

はじめに

ご使用前の準備と確認	11
トイシの取付け・取りはずし	14
研削する	15
別売部品の取付け方	17

使い方

保守・点検	21
ご修理のときは	裏表紙

その他

⚠警告、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠警告**」、「**⚠注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、「**⚠注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

電動工具の安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

- ① 作業場は、いつもきれいに保ってください。**
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② 作業場の周囲状況も考慮してください。**
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ 感電に注意してください。**
 - 電動工具を使用中、身体を、アース(接地)されているものに接触させないようにしてください。
(例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠)
- ④ 子供を近づけないでください。**
 - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
- ⑤ 使用しない場合は、きちんと保管してください。**
 - 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
- ⑥ 無理して使用しないでください。**
 - 安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った速さで作業してください。

⚠ 警告

- ⑦ **作業に合った電動工具を使用してください。**
 - 小形の電動工具やアタッチメントは、大形の電動工具で行う作業には使用しないでください。
 - 指定された用途以外に使用しないでください。
- ⑧ **きちんとした服装で作業してください。**
 - だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は、回転部に巻き込まれる恐れがあるので、着用しないでください。
 - 屋外で作業する場合には、ゴム手袋と滑り止めの付いた履物の使用をお勧めします。
 - 長い髪は、帽子やヘアカバーなどでおおってください。
- ⑨ **保護メガネを使用してください。**
 - 作業時は、保護メガネを使用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。
- ⑩ **防音保護具を着用してください。**
 - 騒音の大きい作業では、耳栓、イヤマフなどの防音保護具を着用してください。
- ⑪ **コードを乱暴に扱わないでください。**
 - コードを持って電動工具を運んだり、コードを引っ張ってコンセントから抜かないでください。
 - コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。
- ⑫ **加工する物をしっかりと固定してください。**
 - 加工する物を固定するために、クランプや万力などを利用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
- ⑬ **無理な姿勢で作業をしないでください。**
 - 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
- ⑭ **電動工具は、注意深く手入れをしてください。**
 - 安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。
 - 注油や付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。
 - コードは定期的に点検し、損傷している場合は、修理をお買い求めの販売店に依頼してください。
 - 延長コードを使用する場合は、定期的に点検し、損傷している場合には交換してください。
 - 握り部は、常に乾かしてきれいな状態を保ち、油やグリースが付かないようにしてください。
- ⑮ **次の場合は、電動工具のスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。**
 - 使用しない、または、修理する場合。
 - 刃物、トイシ、ビットなどの付属品を交換する場合。
 - その他、危険が予想される場合。
- ⑯ **調節キーやスパナなどは、必ず取りはずしてください。**
 - 電源を入れる前に、調節に用いたキーやスパナなどの工具類が取りはずしてあることを確認してください。

警告

⑰ 不意な始動は避けてください。

- 電源につないだ状態で、スイッチに指を掛けて運ばないでください。
- 電源プラグをコンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。

⑱ 屋外使用に合った延長コードを使用してください。

- 屋外で延長コードを使用する場合、キャプタイヤコードまたはキャプタイヤケーブルを使用してください。

⑲ 油断しないで十分注意して作業を行ってください。

- 電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑳ 損傷した部品がないか点検してください。

- 使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また、所定機能を発揮するか確認してください。
- 可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他、運転に影響を及ぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、修理をお買い求めの販売店に依頼してください。
- スイッチが故障した場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は、使用しないでください。

㉑ 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。

- この取扱説明書および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因になる恐れがあるので、使用しないでください。

㉒ 電動工具の修理は、専門店で依頼してください。

- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。ご自身で修理すると、事故やけがの原因になります。

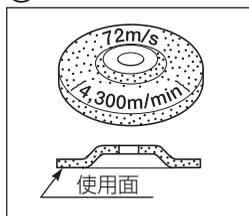
本製品の使用上のご注意

先に電動工具として共通の注意事項を述べましたが、電気ディスクグラインダとして、さらに次に述べる注意事項を守ってください。

警告

- ① 使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。
 - 表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に速くなり、けがの原因になります。
- ② 必ずアース(接地)してください。
 - 故障や漏電などのとき、感電の恐れがあります。
(詳細は、P 11「アース(接地)、漏電しゃ断器の設置」をご参照ください。)
- ③ ホイルガードは、必ず取付けて使用してください。
 - トイシやダイヤモンドカッターが破壊したとき、けがの原因になります。
- ④ 使用するトイシ(レジンイドトイシ)は、最高使用周速度 72 m/s {4,300 m/min} 以上の正規のトイシを取付け、正しい使用面で研削してください。側面や上面では研削しないでください。
 - 正規以外のトイシを使用したり、また側面や上面で研削すると、トイシが破壊し、けがの原因になります。
(トイシ寸法はP 8「仕様」をご参照ください。)
- ⑤ トイシにヒビ、割れなどの異常がないことを確認してから使用してください。
 - 異常があると、トイシが破壊し、けがの原因になります。
- ⑥ 使用中は、振り回されないよう本体を確実に保持してください。特に始動時は気をつけてください。サイドハンドルを付属している場合は、サイドハンドルをしっかりと取付けてください。
 - 確実に保持していないと、けがの原因になります。
- ⑦ 水、研削液などは使用しないでください。
 - 乾式用のため、トイシの破壊によるけがや感電の恐れがあります。
- ⑧ 本体を万力などで保持した使い方はしないでください。
 - トイシやダイヤモンドカッターが破壊したとき、けがの原因になります。
- ⑨ 使用中は、回転部に手や顔などを近づけないでください。
 - けがの原因になります。

④



⑧



⚠ 警告

- ⑩ 研削粉は火花となって飛散するので、引火しやすいもの、傷付きやすいものは安全な場所に遠ざけてください。また、研削火花を直接手足などに当てないようにしてください。

- 火災ややけどの原因になります。

- ⑪ トイシを用いて切断作業をする場合は、切断トイシを使用してください。

- 切断トイシ以外のトイシは、けがの原因になります。

- ⑫ 切断トイシを使用する場合は、切断トイシ専用下記の部品を取付けてください。

ホイルガードベースセット【切断用】

- 切断トイシが破壊したとき、けがの原因になります。

- ⑬ 回転させたまま、台や床などに放置しないでください。

- けがの原因になります。

- ⑭ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音、異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。

- そのまま使用していると、けがの原因になります。

- ⑮ 誤って落としたり、ぶつけたときは、トイシや機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

- 破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

- ⑯ 延長コードを使用するときは、アース線を備えた3心キャブタイヤケーブルを使用してください。

- アース線のない2心コードですと、感電の原因になります。

- ⑰ 【事業者の方へ】

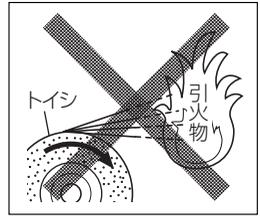
トイシの取替え・試運転は、法・規則で定める特別教育を受けた人に行わせてください。

関連法令 労働安全衛生法 第59条

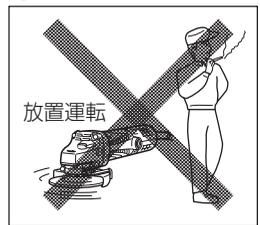
労働安全衛生規則 第36条

安全衛生特別教育規程 第2条

⑩



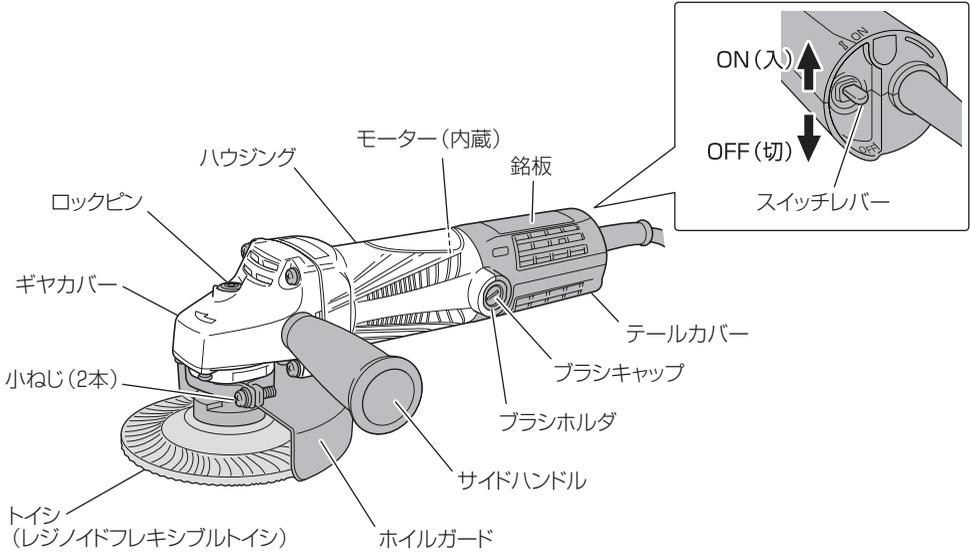
⑬



⚠ 注意

- ① 工具類（トイシなど）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
 - 確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② 新しいトイシを取付け、はじめてスイッチを入れるときは、トイシの露出部から一時身体を避けてください。
 - トイシが破壊したとき、けがの原因になります。
- ③ 試運転を励行してください。
試運転時間は、P 16 の「**㊦ 試運転を行う**」をご参照ください。
 - 試運転せずに作業開始すると、思わぬけがの原因になります。
- ④ 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。
また、コードを引っ掛けたりしないでください。
 - 材料や機体などを落としたとき、事故の原因になります。
- ⑤ 指定以外の刃物（丸のこ刃、チップソーなど）での切断作業はしないでください。
 - 丸のことしての保護装置がなく、けがの原因になります。

各部の名称



電源プラグ形状

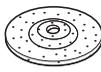
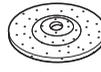
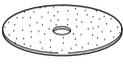
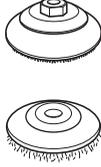
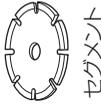
電圧仕様	100 V		200 V
形名 (仕様)	G 13SH5	G 13SH5 (E)	G 13SH5
電源プラグ			

標準付属品

レジノイドフレキシブルトイシ 外径 125 mm × 厚さ 3.7 mm × 穴径 22 mm		1 枚
スパナ		1 個
サイドハンドル		1 個

仕 様

形 名		G 13SH5
使 用 電 源		単相交流 50/60Hz 共用 電圧 100V または 200V
モ ー タ ー		単相直巻整流子モーター
全負荷電流	100V仕様	7.4 A
	200V仕様	3.7 A
消 費 電 力		720 W
無 負 荷 回 転 数		9000 min ⁻¹ {回/分}
トイシ寸法	外 径	125 mm
	厚 さ	レジノイドフレキシブルトイシ : 3.1~5 mm レジノイドトイシ : 6 mm
	穴 径	22 mm
質量(コードを除く)		1.9 kg
コ ー ド		アースクリップ付3心キャブタイヤケーブル 2.5 m

<p>1 レジノイドフレキシブルトイシ</p>  <p>研削時の振動、騒音が低く、研削面への咬い付きが抜群。ステンレス、一般鋼材に材質を選ばず使用でき、効率的な作業ができます。</p>	<p>3 レジノイドトイシ</p>  <p>目づまりが少なく、研削能率は最高。特にステンレスの荒研削には抜群の性能を発揮します。</p>	<p>5 テーパー式多羽根ディスク (穴式) フェルトディスク サイザルディスク</p>  <p>ステンレスやチタンの研削、研磨、各種金属のさび落とし、木材や石材の研削、研磨、金属の鏡面仕上げ等用途に応じてお選びいただけます。</p>
<p>5 多羽根ディスク (穴式)</p>  <p>トイシに比べ高効率、長寿命のすぐれたもの。シルコニア砥粒なのでステンレス、特殊鋼の研削および重研削作業も可能です。</p>	<p>7 サンディングディスク</p>  <p>研削量が少なく仕上げ面をきれいにしたいたとき、塗装面の下地みがき、さび落とし、塗料落としなどに用います。</p>	<p>8 ベベルワイヤブラシ (穴式)</p> <p>9 ベベルワイヤブラシ (ねじ式)</p>  <p>穴式 ねじ式</p> <p>鋳物、構造物、タンク、車体、鉄板、石材およびコンクリートなどの表面仕上げ、またはペンキはがしなどに有効です。特に凸凹が激しい面や、隅の部分または溝の底などを仕上げる場合に外周部を使用し、効率を上げることができます。線材破片の飛散が少ない。高性能・長寿命タイプです。</p>
<p>9 カップワイヤブラシ (ねじ式) ナイロングリッドブラシ</p>  <p>ベベルワイヤブラシと同じ目的に使用されますが、とくに仕上げ面が平らな場合能率的です。</p>	<p>11 切断トイシ</p>  <p>切断トイシは金属用と非金属用の2種類あります。</p>	
<p>12 ダイヤモンドカッター</p>  <p>セグメント 波形セグメント</p>	<p>カワラ、タイル、石材、コンクリートなどの溝入れ、および研削用など、多彩にラインナップしております。</p>	

ご使用前の準備と確認

●アース(接地)、漏電しゃ断機の設置

ご使用にさきだち、電源に労働安全衛生規則や電気設備の技術基準などに規定された感電防止用漏電しゃ断機(以下、漏電しゃ断機と言います)が設置されていることを確認してください。

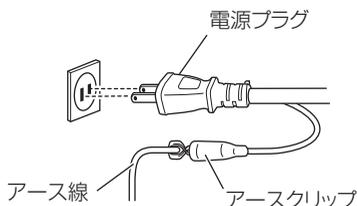
⚠ 警告

アース線をガス管に取付けると爆発の恐れがあるので、絶対にしないでください。

- 注**・プラグのアースクリップや接地極、アース線は、異常のないことを確認してからご使用ください。
テスターや絶縁抵抗計などをお持ちでしたら、プラグの接地極またはアースクリップと機体の金属外枠との間の導通を確認してください。
- ・地中に接地極(アース板、アース棒)を埋め、アース線を接続するなどの設置工事は、電気工事士の資格が必要ですので、お近くの電気工事店にご相談ください。

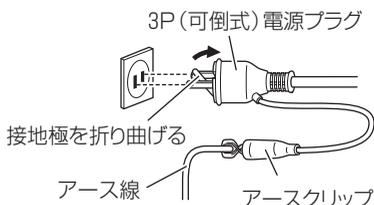
G 13SH5 をお使いの場合

アースクリップ付電源プラグはアースするときに、右図のようにアースクリップをアース線に接地してください。



G 13SH5 (E) をお使いの場合

アースクリップ付3P(可倒式)電源プラグはアース付(3ピン)コンセントに直接さし込むことでアースクリップによるアースは不要です。
アース極のない2極コンセントに接続するときは、右図のように接地極を折り曲げてコンセントにさし込み、アースクリップをアース線に接続してください。



●延長コードを使う場合

電気が流れるのに十分な太さのできるだけ短いコードをご使用ください。

右表は使用できるコードの太さ（導体公称断面積）と、最大の長さです。

必ずアース線（接地）できる接地用の1心をもつ3心キャブタイヤケーブルをお使いください。

コードの太さ (mm ²)	最大長さ (m)	
	100V仕様	200V仕様
1.25	15	30
2	25	50
3.5	45	90

●使用電源の確認

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転数が異常に速くなり、機体が破損する恐れがあります。

また、直流電源で使用しないでください。機体の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

●コンセントの確認

電源プラグをさし込んだとき、コンセントがガタガタだったり、電源プラグがすぐ抜けるようでしたら修理が必要です。

販売店またはお近くの電気工事店などにご相談ください。そのままお使いになりますと、過熱して事故の原因になります。

●作業環境の整備

警告

- ① 作業場は、いつもきれいに保ってください。
 - ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
- ② 作業場の周囲状況も考慮してください。
 - 電動工具は、雨の中で使用したり、湿った、または、ぬれた場所で使用しないでください。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
 - 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
- ③ 子供を近づけないでください。
 - 作業員以外、電動工具やコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

薄い鋼板などを研削する場合には、作業台の状況によっては研削音が鋼板に反響して大きな騒音が出る場合があります。このような場合には鋼板の下にゴムシートを敷くなどして騒音を出さない配慮が必要です。

トイシの取付け・取りはずし

標準付属のレジノイドフレキシブルトイシは次の手順で取付け・取りはずしをしてください。

⚠ 警告

トイシの取付け、取りはずしの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。誤ってスイッチを入れてしまうと、けがの原因になります。

⚠ 注意

- ホイルナットは、必ず付属のスパナを使って十分に締付けてください。
- ホイルワッシャ【ダイヤ用】(別売部品)を、ホイルナットの代わりに使用しないでください。

取付け

1 ホイルワッシャ・トイシを取付ける

- スピンドルを上に向け、ホイルワッシャの凸部をスピンドルの切欠部に合わせてホイルワッシャを取付けます。
- ホイルワッシャの上にトイシの突出部を当てます。

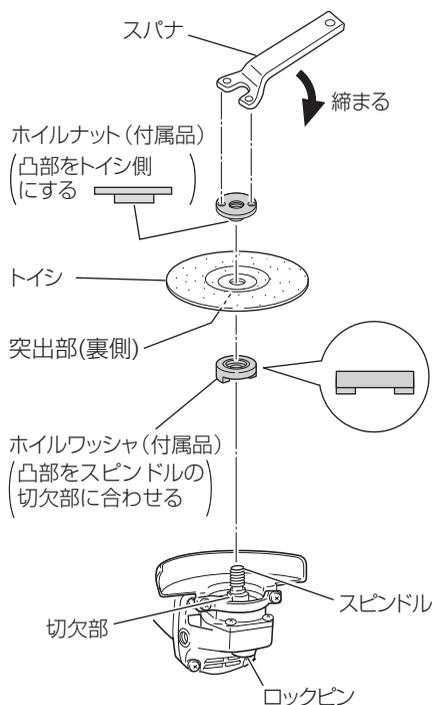
2 ホイルナットを取付ける

トイシの上からホイルナットの凸部をトイシの穴に合わせ、スピンドルに取付けます。

3 ホイルナットを締付ける

- ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでホイルナットを十分に締付けます。
- ロックピンから手をはなすと、元の位置に戻り、スピンドルの固定が解除されます。

注 ロックピンを押してはなしたときに、確実に戻ることを確認してください。



取りはずし

トイシを取りはずす場合は、**①～③**の取付けと逆の手順に行います。

研削する

- 鉄、青銅、アルミ鋳物などのバリ取りおよび仕上げ、溶接、溶断部の研削、さび落とし
- 塗装面の下地みがき、さび落とし、塗装落とし
- 軟鋼材（薄鉄板、小径丸棒など）の切断
- カワラ、タイルなどの切断
- カワラ、タイル、石材、コンクリートなどの溝入れおよび研削

警告

- 手順①～④については、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントにさし込む前に確認してください。
誤ってスイッチを入れてしまうと、けがの原因になります。
- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 誤って落としたり、ぶつけたときは、トイシや機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。

1 スイッチが切れていることを確認する

スイッチはON側に倒すと入り、OFF側に倒すと切れます。

3 ロックピンを点検する

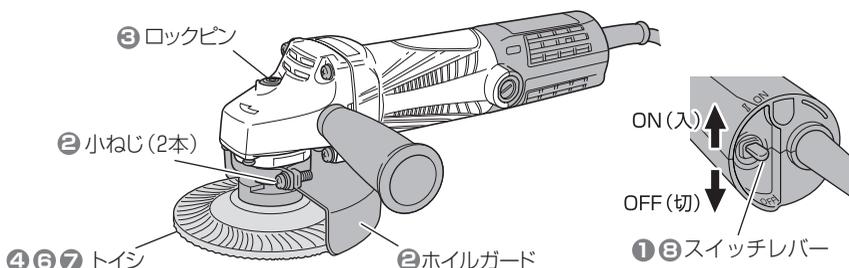
ロックピンを押してはなしたときに、確実に戻ることを点検してください。

2 ホイルガードを点検する

- ホイルガードはトイシが破壊した場合に使用者を保護する防護壁ですから、必ず取付けてください。
- ホイルガードは小ねじ（2本）を少しゆるめることにより任意の角度に動かすことができます。作業に適した角度にセットしてご使用ください。
調整後は小ねじ（2本）を確実に締付けてください。

4 トイシを点検する

- トイシは正規のものか、またヒビや割れがないか調べてください。
- トイシは正規の状態に取付けられ、十分締付けられているか点検してください。
(P14「トイシの取付け・取りはずし」参照)



⚠ 注意

- スイッチを入れるときは、機体をしっかりと保持してください。
起動時の反動で、思わぬけがををする恐れがあります。
- 機体のスイッチを入れるときは、機体の回転部分が加工材などに接触していないことを確認してください。
接触していることを知らずにスイッチを入れると、トイシが破壊することがあり、けがの原因になります。
- 新しいトイシを取付け、はじめてスイッチを入れるときは、トイシの露出部から必ず一時身体を避けてください。

注 モーターが回転中は、ロックピンを押さないでください。またロックピンを押したままでスイッチを入れないでください。

5 電源プラグをコンセントにさし込む

6 試運転を行う

- トイシにヒビ・割れがあるのを気づかずに作業しますと非常に危険です。
- 作業前には人のいない方向にトイシを向け、必ず試運転を行って異常がないことを確認してください。

試運転時間は

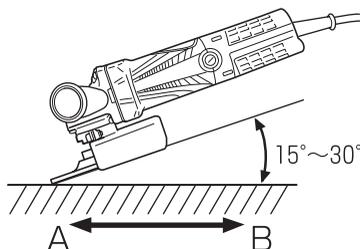
トイシ交換のとき…………… 3分間以上
その日の作業始めのとき… 1分間以上

注 • トイシは材料に強く押し付けしないでください。

強く押し付けると回転が落ち仕上げ面がきたなくなります。また過負荷になってモーターが故障する原因になります。

7 材料にトイシをあてる

- 新品のトイシは、前(Aの方向)へ押しますとトイシの角が食い込むことがありますから、後ろ(Bの方向)へ引いてご使用ください。
- トイシの全面を材料にあてないで、図のように機体を $15^{\circ}\sim 30^{\circ}$ 傾けて、トイシの外周部で研削してください。
- 角が消耗しましたら、どちらへ進めても問題ありません。



8 作業を終了する

使用後はスイッチを切って、トイシの回転が止まってから機体を置いてください。

回転が止まらぬうちに切粉やごみの多い場所に置きますと、切粉やごみを吸い込むことがあります。

機体の寿命低下、事故の原因となりますのでご注意ください。

別売部品の取付け方

⚠ 警告

別売部品を使用する際も、以下の内容を守ってください。

- 万一の事故を防止するため、取付け、取りはずしの際は、スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ホイルガードを取付け、保護メガネを使用してください。
- 使用前に、ヒビ割れ、欠け、曲がりがないことを点検してください。
- 水や研削液などをかけて使用しないでください。
- 強い反力が発生することがあるので、機体を確実に保持してください。

⚠ 注意

トイシと同様に試運転を行って、異常がないことを確認してください。
(P16「**⑥** 試運転を行う」をご参照ください)

● サンドィングディスクの取付け

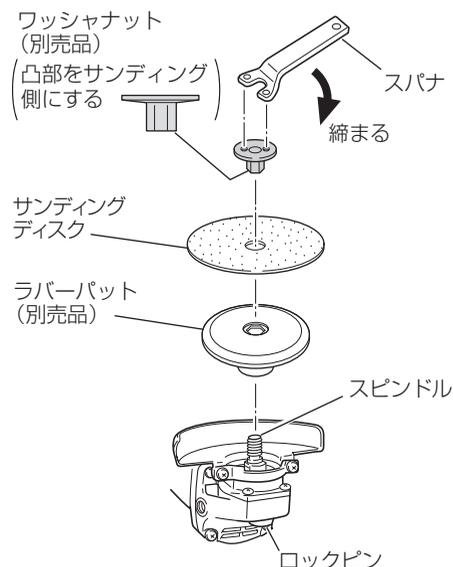
○ サンドィングディスクをご使用になるときは、ワッシャナット、ラバーパット、を一緒にお買い求めください。

注 付属のトイシ取付け用のホイルワッシャ、ホイルナットは使用しません。

1 スピンドルにラバーパット、サンドィングディスクの順に取付けます。

2 サンドィングディスクの上からワッシャナットの凸部をサンドィングディスク側にして、スピンドルに取付けます。

3 ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでワッシャナットを十分に締付けます。



●ホイルガードベースセット【切断用】の取付け

○切断トイシやダイヤモンドカッターを使用する際、ホイルガードベースセット【切断用】を取付けてご使用になると切込み深さを一定に保つことができます。

注 ●切断トイシを使用する際は、ホイルガードベースセットを必ず取付けてご使用ください。

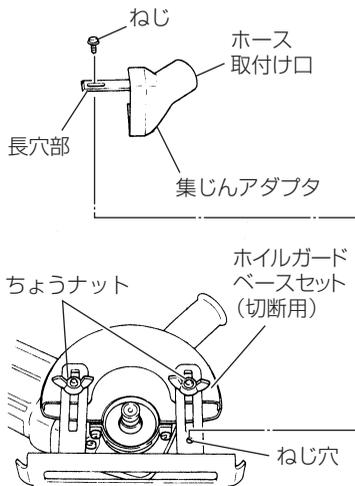
●ちょうナットやねじ類はしっかりと締付けてください。

締付けが不十分な場合、作業中にねじがゆるんでホイルガードベースが動き、けがの原因になります。

1 付属のホイルガードを小ねじ（2本）をゆるめてはずし、ホイルガードベースセット【切断用】を機体の回転方向に注意して取付けます。

2 ホイルガードベースセット【切断用】の角度を作業に合った位置にセットし、ホイルガードベースセット【切断用】を十分に固定します。

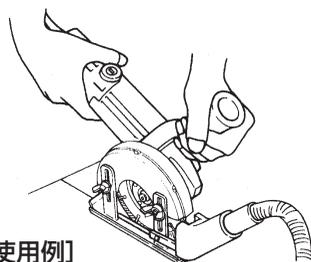
3 切込み量の調整は、ちょうナット（2コ）をゆるめて行います。



集じんアダプタを取付ける場合

1 ホイルガードベースセット【切断用】のねじ穴に集じんアダプタの長穴部を合わせ、ねじで締付け固定してください。（右上図参照）

2 集じんアダプタのホース取付け口に、電動工具用集じん機（別売品）のホースを取付けてご使用ください。切断粉が飛散せず、衛生的な作業ができます。



【使用例】

注 集じんアダプタはゴム製ですので、切断トイシを使用して鋼材を切断する場合は使用しないでください。切断作業時に発生する研削火花で集じんアダプタや集じん機が損傷します。

● ダイヤモンドカッターの取付け

○ダイヤモンドカッターは乾式用をご使用ください。

○別売のホイルガードベースセットを取付けてご使用になると、切込み深さを一定にすることができます。(P 18「ホイルガードベースセット【切断用】の取付け」参照)

- 注**
- モーター故障の原因になるので、1回の切込み量は5mm以下にしてください。
 - 送り速さを加減しながら無理な力をかけないようにして使用してください。
 - ホイルワッシャ、ホイルナットは付属のトイシ取付け用と同じ部品を使用しますが、ホイルナットは付属のトイシ取付け時と向きを逆にして使用します。

1 スピンドルに、ホイルワッシャ、ダイヤモンドカッターの順に取付けます。

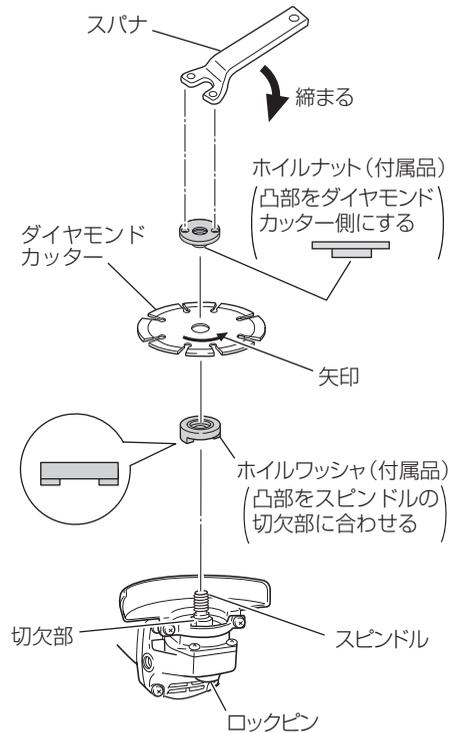
注 ギヤカバーについている矢印とダイヤモンドカッターについている矢印の方向を合わせてください。

2 ダイヤモンドカッターの上から、ホイルナットの凸部をスパナ側にして、スピンドルに取付けます。

3 ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでホイルナットを十分に締付けます。

参考

- 付属のトイシ取付け用ホイルワッシャの代わりに別売部品としてダイヤモンドカッター専用ねじ式のホイルワッシャ【ダイヤ用】を用意してあります。より精度の高い加工をするときにお買い求めください。
(スーパーワッシャ、ホイルワッシャ【ダイヤ用】は、ホイルナット【スーパーワッシャ用】とセットでご使用ください。(P 10「別売部品」参照)
- ホイルワッシャ【ダイヤ用】の取付けは、凸部(φ22)をダイヤモンドカッター側にして、取付けます。



●切断トイシの取付け

- 切断トイシは金属用と非金属用の2種類あります。
- 鉄などの切断には金属用切断トイシをご使用ください。
- 切断トイシをご使用になるときは、別売のホイルガードベースセット【切断用】を必ず取付けてご使用ください。

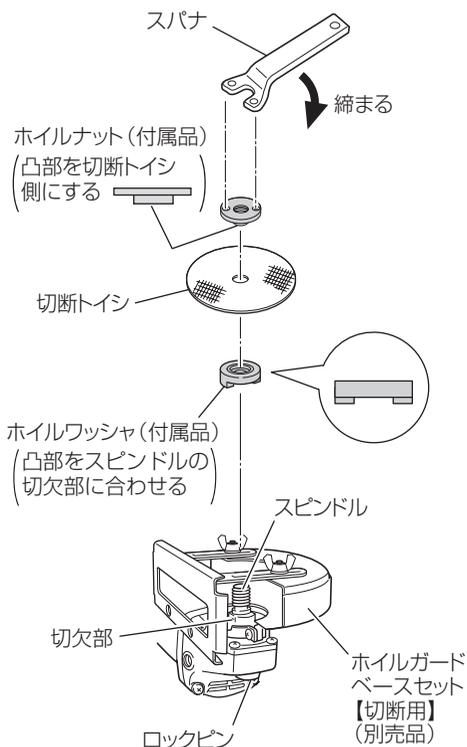
注 ホイルワッシャ、ホイルナットは付属のトイシ取付け用と同じ部品を使用しますが、ホイルナットは付属のトイシ取付け時と向きを逆にして使用します。

1 付属のホイルガードを小ねじをゆるめず、ホイルガードベースセット【切断用】を取付けます。

2 スピンドルにホイルワッシャ（付属品）、切断トイシの順に取付けます。

3 切断トイシの上からホイルナットの凸部をスパナ側にして、スピンドルに取付けます。

4 ロックピンを押してスピンドルを固定し、スパナでホイルナットを十分に締付けます。



- 注**
- モーター故障の原因になるので、1回の切込み量は5mm以下にしてください。
 - 送り速さを加減しながら無理な力をかけないようにして使用してください。
 - ホイルガードベースセット【切断用】は、切断作業時に発生する研削火花で高温になります。手など触れないようにご注意ください。

●各種先端工具の取付け

先端工具	取付け方法
レジノイドトイシ ベベルワイヤブラシ(穴式) テーパ式多羽根ディスク(穴式) 多羽根ディスク(穴式)	付属のトイシ取付け用ホイルワッシャ、ホイルナットを使用し、付属のレジノイドフレキシブルトイシと同じ方法で取付けます。 (P14「トイシの取付け・取りはずし」参照)
カップワイヤブラシ(ねじ式) ベベルワイヤブラシ(ねじ式)	直接スピンドルにねじ込んでください。 付属のトイシ取付け用ホイルワッシャ、ホイルナットは使用しません。

保守・点検

⚠ 警告

点検・お手入れの際は、必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

●取付ねじの点検

各部取付ねじでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら、締め直してください。
ゆるんだままお使いになりますと、けがなど事故の原因になります。

●お手入れする

機体が汚れたときは、石けん水に浸した布をよく絞ってからふいてください。
ガソリン、シンナー、ベンジン、灯油類はプラスチックを溶かす作用があるので使用しないでください。

●トイシの交換時期

トイシの外径が約 75 mm まで摩耗しましたら、新品と交換してください。

●モーター部の取扱について

⚠ 警告

エアガンなどを用いてテールカバーの風穴から空気を吹き込む際には、保護メガネと防じんマスクを使用してください。
排出されたごみやほこりを吸い込んだり、目に入る可能性があります。

モーター部の巻線は機体の重要な部分です。巻線に傷、洗油および水をつけないよう十分に注意してください。

注 50 時間くらい使用しましたら、モーターを無負荷運転させながら、エアガンなどを用いて湿気のない空気をテールカバーの風穴から吹き込んでください。特に下図に示す 4 カ所の風穴(大)から吹き込むとより効果的です。ごみやほこりの排出に効果があります。
モーター内部にごみやほこりがたまると、故障の原因になります。



●作業後の保管

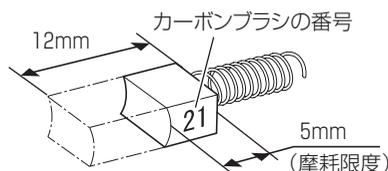
機体や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- 注**
- ・ お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所には保管しない。
 - ・ 軒先など雨がかったり、湿気のある場所には保管しない。
 - ・ 温度が急変する場所には保管しない。
 - ・ 直射日光の当たる場所には保管しない。
 - ・ 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所には保管しない。

●カーボンブラシの点検

モーター部には、消耗品であるカーボンブラシを使用しております。カーボンブラシの摩耗が大きくなりますと、モーターが故障する原因となりますので、長さが摩耗限度(5mmぐらい)になりましたら新品と交換してください。

また、カーボンブラシはごみなどを取除いてきれいにし、ブラシホルダ内で自由にすべるようにしてください。

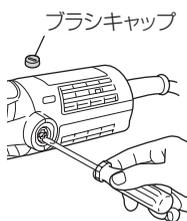


- 注** 新品のカーボンブラシと交換の際は、必ず図示の番号(21)の日立カーボンブラシを使用してください。

●カーボンブラシの交換方法

1 古いカーボンブラシを取り出す

マイナスドライバーなどでブラシキャップをはずして、古いカーボンブラシを取り出します。

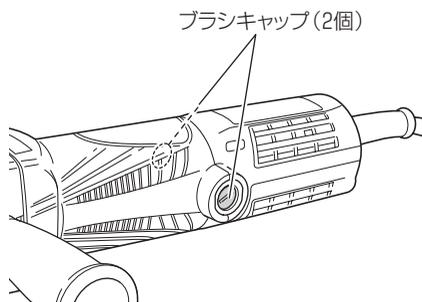
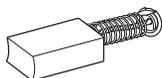


3 ブラシキャップを取付ける

ブラシキャップでカーボンブラシを押しさえ込みながら、マイナスドライバーなどで時計方向に回して締付けます。

2 新しいカーボンブラシを取付ける

ブラシホルダの角穴に合わせてカーボンブラシを指で押し込みます。



使
い
方

そ
の
他

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へ
お問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(NO.)などを下欄にメモしておかれますと、
修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年 月 日	製造番号(NO.)
販売店(TEL)		

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00~17:00

●フリーダイヤル



0120-20-8822

※携帯電話からはご使用になれません。

携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待たせする場合があります。

お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 5733-0255	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■ 営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスして最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。

<http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに
アクセス



右のQRコードをバーコードリ
ーダー機能付きの携帯端末より
読み取ることで、最新の全国営
業拠点をご確認いただけます。



〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号(品川インターシティA棟)

営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ—<http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/>